

平成 25 年度第 2 回市民協働推進委員会会議概要

- ◎日 時 : 平成 25 年 5 月 26 日 (日) 14:00~16:30
- ◎会 場 : 市役所 1 号館 3 階会議室
- ◎出席委員 : 名和田委員長、宇田川副委員長、伊藤委員、近藤委員、田辺委員、寺田委員、渡辺委員、小林委員、角田委員、宮本委員
- ◎事務局職員 : 井岡自治人権推進課長、鴨志田主査、小田主査補、橋本主任主事、尾形主事
- ◎傍聴者 : 0 名

◎議題

- (1) 平成 25 年度市民協働事業 (市民提案型) プレゼンテーション及び質疑応答 (公開)
- (2) 平成 25 年度市民協働事業 (市民提案型) の審議 (非公開)

事務局：本日の会議の公開については、前回の委員会において決しましたとおりプレゼンテーション及び質疑応答は公開となりますが、審議については非公開となります。現在、傍聴者はありませんが、来た場合の対応については委員長からご指示頂きたい。スケジュールについては、1 団体あたり 5 分間のプレゼンテーションを行なった後、20 分間の質疑応答を目安としていただきたい。

1. 開会

(省略)

2. 委員長あいさつ

委員長：前回の第 1 回、今回の第 2 回とスムーズな滑り出しとなったように感じる。公募枠の委員も慣れてきた頃かと思う。今回も忌憚のない意見交換をお願いしたい。

3. 議事

(1) 市民協働事業 (市民提案型) プレゼンテーション及び質疑応答 (公開)

委員長：委員 10 名全員の出席があり、本日の委員会は成立となる。

現在、傍聴者はいないが、来た場合はその都度私に対応をする。本日の会議については、プレゼンテーション及び質疑応答については公開となるが、審議については非公開となる。1 団体あたりの時間配分としては、5 分間のプレゼンテーションと 20 分間の質疑応答を予定しているので、各委員にも協力をお願いしたい。

評価票については、プレゼン前とプレゼン後にそれぞれ集計を行う。

①NPOいんば（印旛沼広域環境研究会）

NPOいんば：7月28日の詳細スケジュールについては、集合後、千葉県内水面水産研究所で学習会を行い、昼食はかつぱ公園でカレーを食べ、そしてふるさと広場から屋形船から印旛沼を間近に見て、感じながら印旛沼の説明等を行う。前回と午前、午後のスケジュールを入れ替えてコストの節約を図っている。ミウズフェスティバルにて昨年度実施事業の様子を展示し、PRを図る。

委員：昨年度も申請をしており、今年は2年目ということになるが前年度と比較して、コストだけでなくその他の改善点や違いはあるか。

NPOいんば：前回は1日だけの事業であったが、より目的を達成するため複数日にわたる事業とした。また、公益性の観点から昨年度よりも参加できる子どもたちの人数を増やした。

委員：対象者が印旛沼流域の小中高生、市民全体となっているが、メインとなる参加者はどのあたりを想定しているのか。

NPOいんば：メインとなる参加者は小学校3、4年生あたりを想定している。

委員：前委員と重なる部分はあるが、昨年から改善されている点がわかりづらい。親水のイベントや語り部の話を聴くイベント、柏井や印旛沼の浄水場の見学なども検討してはどうか。

NPOいんば：浄水場については小学校の行事で見学を行っている学校が多いため、現状は考えていない。乗船中に印旛沼の水の話や水草、魚等の生物多様性のお話を予定である。

委員：船に乗れる人数は限られているが公益性をどうするのか。定員を超えた場合は乗れない人がでてくる。広報をしっかりとるのであればある程度の公益性は確保できる。学校の校内放送を活用するのはどうか。

また、バスについては昨年も同様の意見があったが、利用人数が少ないこともあり、現地集合、現地解散も検討してはどうか。

NPOいんば：校内放送については学校との調整が必要と考えている。296についても。

委員長：募集人数が60名ということになると、定員の関係で行きたい人が参加できない

可能性がある。

NPOいんば：昨年は定員の関係で参加できなかった方がいたので、今年は昨年より屋形船を1隻増やした。

委員長：たまたま運が良かったため無料で参加できる子どももでてくるし、逆に有料にしてしまうと比較的貧しい子供が参加できないという批判がでるかもしれないし、このあたりのバランスは難しい。

委員：臼井駅からバスで現地に行くのではなく、駅から印旛沼沿いにゴミ拾いをしながら歩いて現地まで行くということでも良いと思う。

NPOいんば：バスについては子どもが1人で参加する場合や熱中症等を考慮して、使用している経緯がある。また、ゴミ拾いについては年に数回行っている。

委員：それは団体のメンバーがやっているのであって、参加した子どもたちにもさせてみてはどうかという趣旨である。

委員：公益性が問題になっていると感じる。1人でも多くの人に参加してもらうことが大切である。また、他の委員からも意見がでていますが、バスの使用が引っ掛かる。家族に送迎してもらったり、友人同士で参加する場合もある。そこまで行う必要はあるのか。

NPOいんば：休日にも働いている家庭では、家族による送り迎えが難しい場合もある。また、安全性等も考慮しバスが必要と考えた。

委員：屋形船については雨の場合どうなるのか。

NPOいんば：屋形船は風速5メートル以上だと運行中止となる。雨であっても強くなければ運行となる。多少の雨であれば運行する。

委員：スケジュールにのっている俳句の取り組みについても、大切な取り組みだと思うので、是非事業概要にのせたほうがよい。

委員長：他になければNPOいんばについては終了となる。

②佐倉うぬぼれ隊

うぬぼれ隊：元々は旧平井家住宅を活用したまちづくり活動が発端となっている。佐倉をもっと好きになってもらう、愛着を持ってもらうことを目標にしている。アランウエストさんは東京の谷中で屏風絵を書いてらっしゃる方で日本の文化にも詳しい。日本人ではない人にまず来ていただいて、外国人であるアランさんの視点から佐倉の魅力を発信していき、講演会自体は、旧平井家住宅がありますが、アランさんが屏風絵師ということで屏風絵をお借りして飾っていきたい。旧堀田邸での実施を考えている。こういったイベントを考えている。

委員：外国人の視点から見た佐倉の良さという視点は良いと思う。申請書にこの方の素性がでていなかったためわかりづらかったので書いていただきたい。また、屏風絵の方はいつ頃から日本にいらっしゃるのか？アランさんには佐倉に関する知識はあるのか。

うぬぼれ隊：今調べてみましたら初来日は1982年、1985年に筑波万博で展示案内、1989年に東京芸大の日本画家に入学されている。奥さんと川村美術館に来ている。

委員：作品を借りて、アランさんと呼ぶと18万円ということだが、作品は何点かりていくぐらいで、講師料はいくらぐらいなのか

うぬぼれ隊：だいたいですが7、8点お借りする予定でいる。大小織り交ぜて。一応堀田邸さんをお借りする予定で部屋はあまりないが、7・8点を予定している。交通費を含めてほしい18万ぐらいだろうと。何点かということはその時、細かくは決めてないが、だいたいこれぐらいでおさまるといふことで聞いている。

委員：非常にユニークなお名前の団体だが、規約をみると昨年度の24年3月31日から施行するとの記載があり、また会計年度については4月1日から翌年3月31日までとなっている。しかし、平成24年度、前年度事業報告と収支決算書も実績がなしとなっているが、これは規約で決められていないというのはどのような理由でこのようになっているのか。

うぬぼれ隊：会としてみると、以前から存在していたが平井家住宅をどうするのかという会議に出ていただけで、会費とか全くなくて自分たちだけでやっていた団体でして、その後、こういうことであろうということになって今年から会費とか集め出したので、会計みたいなものは全くなくて、前年度の実績がなしという状況になってしまった。

委員：言い方は厳しいが間に合わせ的な申請という印象を受けてしまう。

委員：支援理由書の中に書いてある佐倉の魅力を伝えるために、何故外国人アーティストでなければならないのか理由がはっきりしない。いきなり外国人アーティストが佐倉をみたい感じがする。外国人アーティスト、アランウエストさんがどんな人かということもわかりやすく記載が欲しかった。われわれがわかるように説明してほしいし、市民のだれもが見てもわかるようなものにしてほしい。佐倉を大して知らない外国人のアーティストに無理に押し付けたなという印象がある。佐倉を良く知らない人達に対して、佐倉をアピールするということなら新町周辺の人だけでなく、市内の様々な地域からメンバーを集めたほうが良い。

委員：同じ市内の中でどの地区が、どこの地区の住民に知られていないのかという認識はあるのか。

うぬぼれ隊：臼井地区や志津地区の住民で佐倉地区に来たことがない方や秋祭りなどのイベントを知らないという方が多い。同じ市内の人でもよく知らないという方が多いという状況では、外部の人に佐倉の魅力を的確に伝えることはできないと思うので、市内の人にも佐倉の魅力を伝えていきたい。

委員：今回のうぬぼれ隊では、若い世代が立ち上がってくれた。佐倉には様々な歴史があるが、それらを上手く発信できていない現状がある。うぬぼれ隊のような若い人が中心となった団体が、今後発展していき、様々な活動を行うようになれば、佐倉がより盛り上がっていくと思う。講演終了後のパーティーについてはどこで行うのか。

うぬぼれ隊：旧平井家で計画している。できれば、佐倉にちなんだお酒等を使用したい。パーティーの際に会費を徴収する。

委員：視点はとても面白い。現状、新町には外部から観光客が来ても食事する場所が少ないこともあり、食事は別の場所でということになってしまう場合が多い。新町周辺には観光資源が多くあるので、ここから発展させてほしい。

うぬぼれ隊：それもあって旧平井家と旧堀田邸は離れているが、その間が新町となっている。旧平井家でパーティーがある日も堀田邸で展示会を行なっているので、その流れのまま歩いていただければと思う。

委員：企画会議、サクライブとなっており、web で放送するとなっているが、これはライ

ブなのか。

うぬぼれ隊：生中継で毎月最終木曜日夜8時からユーストリームという枠で生中継している。

委員：どのくらいの人が視聴しているのか。

うぬぼれ隊：毎回20名程度となっている。

委員：成果指標は、講演会の参加人数と記載しているが何人を目標にしているのか。

うぬぼれ隊：50人を目標にしている。平井家に入れるのは50人程度が限度なため、講演会とパーティーについてはそれぞれ50人を目標としている。

委員：なぜアランさんを選んだのか、その理由は。アーティストのアランさんを呼ぶよりも一般の多数の外国人を呼ぶ方が人が集まるのではないか。

うぬぼれ隊：たまたまと言ったら変だが、谷中は人がいっぱい集まるエリアで、頻繁に見に行っていたいなあと思った。その後、NHKのフランス講座でアランさんがでていた。どういう人なのかなあとお変気になったので連絡を取り、実際に会いに行った。なぜ外人さんかという、日本人は日本人に言われるとなかなか耳に入らないので。

委員：外国人の中でもアーティストよりも、一般の複数の外国人の方がより広がるような気がする。

うぬぼれ隊：私の仲間にアーティストが多いというのもある。また、商店街に若い人を引き込みたいというのもある。若者に話を訊くと、アート系のイベントに興味を持っている人が多かった。そういったこともあり、若い人を取り込むにはアート系のイベントが良いのではないかと感じた。

委員長：申請書だけを見ると、外国人やアーティストにした理由がわかりづらい。今の説明でようやく趣旨が理解できた。

他になれば質疑応答は以上で終了とする。休憩を挟んで審議に入る。

(2) 市民協働事業（市民提案型）の審議（評価・意見調整等）（非公開）

今回の議事録署名人は名簿順により近藤委員にお願いしたい。

4. その他

事務局よりおおまかな今後の日程と議事内容について報告。

5. 閉会

委員長：以上で本日の委員会は終了となる。お疲れ様でした。

平成25年6月4日（火）

委員長	名和田 是彦
副委員長	宇田川 光三
議事録署名人	近藤 維久子